

Newsletter



NO. 91 2001. 2. 15

〒158-8630 東京都世田谷区等々力 6-39-15 (学) 産業能率大学 日本教育情報学会運営本部事務局
Tel:03-3704-9168 Fax:03-5758-5501 <http://wwwsoc.nacsis.ac.jp/jsei>

第16回定時総会報告

2000年11月11日(土) 13:00から岐阜女子大学文化情報研究センターにおいて、日本教育情報学会第16回定時総会が開催されました。

正会員527名のうち126名の出席(委任状による出席を含む)があり、定款27条により総会は成立し、木田宏会長を議長として総会を開会しました。

提案された2議案

第1号議案 1999年度事業報告及び収支決算の件

第2号議案 2000年度事業計画及び予算案の件

は、審議の結果、原案通り承認されました。

(議案内容はNewsletter NO. 90をご参照ください)

報告事項として、日本教育情報学会賞受賞者の発表があり、総会に引続き表彰式が行われました。(P4参照)

また、当日12時から開かれた評議員会において、会費を低額とする「学生会員」を設けることが提案され、理事会で合意されたことが報告されました。総会においても参加者の総意として賛意が表わされました。

2001年度 第17回年会日程決定

日程: 11月10日(土)・11日(日)

会場: 国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)

ご連絡が遅くなり申し訳ありません。

日本教育情報学会第16回年会開催報告

日本教育情報学会第16回年会は2000年11月11日(土)12日(日)の両日、岐阜女子大学 文化情報研究センターを会場に、岐阜県教育委員会の後援、地域資料デジタル・アーカイブ化協議会、学習システム研究会、初等教育研究所の協賛を得て、200名を超える方々の参加により開催されました。

日本教育情報学会が設立されてからすでに16年が過ぎ、教育の情報化は通信ネットワークが日常的に利用できる時代になって、大きな転換期を迎えようとしています。この転換期における課題の一つは、今までの学校教育中心から、家庭・地域社会・学校が連携した教育システムをいかに構築するかにあります。二つ目は、今までのハードや情報処理ソフトの利用から、いかに教育で利用価値の高いコンテンツを使った学習ができるか、情報環境の整備、すなわち情報の内容が問題となってきたことです。

教育の多様化が進み、21世紀に向けた学校・家庭・地域社会が、それぞれの役割と責任のもとに連携協力して、教育問題・青少年問題に対応できる新しい教育システムの構成が必要となってきた状況をふまえ、シンポジウムのテーマを「学校・家庭・地域社会の連携と情報」と設定しました。静岡文化芸術大学の有園格教授を司会に、木田宏会長が基調提案を行った後、富岡賢治(国立教育研究所)・服部晃(岐阜県総合教育情報センター)・秦政春(大阪大学人間科学部)各氏が登壇し、今日求められている①心の教育を育てるネットワーク、②地域社会と学校・家庭の情報ネットワークの諸問題、③学級崩壊・いじめ問題と学校・家庭・地域社会の諸問題など現代の教育問題を捉えながら新しい教育システムの構築にむけた基本視点からの究明をしました。(概要は教育情報研究第16巻第2号掲載)

教育センター・博物館・企業・各学校・市町村などで多くの資料をデジタル化されることにより、それらの利用がインターネット、CDなどを用いて可能な状況になってきました。文部省をはじめ各省庁・各市町村や小中高等学校・企業・大学・生涯学習施設では、各地域情報を整備し流通事業が始まろうとしています。教育に関する情報内容の整備の方法としてデジタル・アーカイブを考えるため、パネルディスカッションのテーマは「デジタル・アーカイブ化の課題～教育利用を目的として～」としました。加藤直樹氏(岐阜大学)を司会に、パネリストに坂井知志(常磐大学)・井上透(オリンピック記念青少年総合センター)・久世均(岐阜県生涯学習センター)・井上雄志(河合村中学校)の各氏から、現状報告と今後のデジタル・アーカイブ化の課題とその方向性の検討がされ、熱心なフロアからの質疑もあって活発なディスカッションが行われました。(概要は教育情報研究第16巻第3号掲載予定)

課題研究では、「地域文化情報メディアと教育」「情報教育と総合的な学習」「教科教

育と情報活用」「遠隔教育」を取り上げ、4課題で計32件が発表があり、一般研究においても「教育情報」「マルチメディア」「教材開発」「教育情報ネットワーク」「デジタル・アーカイブ」「情報社会」「システム開発・活用」「情報教育」の8分野にわたり、58件の日頃の研究成果の発表がありました。

通信ネットワークを用いて多様な資料が誰にでも利用できる時代になろうとしており、この第二次の新しい情報化社会では、ITの発展に必要なデジタル化された良質なコンテンツ(情報の内容)作りと流通が求められています。日本全国、各地域には多くの文化、芸術、産業、教育等の資料があり、これらをいかに情報化し、ITで利用できるデジタル化された多様なコンテンツを作るかが課題となっています。そこで、本学会主催、学習システム研究会主管、地域資料デジタル・アーカイブ化協議会共催、岐阜県教育委員会後援の「デジタル・アーカイブ」コンクールを開催しました。この表彰式が2日目の昼に年会会場で行なわれ、学校の部・一般の部から最優秀賞4件(京都市立有濟小学校4年児童全員、多治見市立陶都中学校若尾直孝さん、岐阜県立中津高等学校吉本龍司さん、山形県地域文化創造支援グループ)、学校賞4件、優秀賞学校の部6件、一般の部8件、奨励賞6件の表彰を行いました。

今回は、年会前日の10日に同会場で、学習システム研究会、地域資料デジタル・アーカイブ化協議会と本会共催の「総合的な学習と実践発表会」を開催しました。岐阜県で制作した「情報」教科関係のテキスト、CDを用いた実践研究の報告を、実践校とテレビ会議システムで結び実施しました。

1日目終了後に開かれた懇親会には、会場をご提供いただいた岐阜女子大学の堀幹夫学長にもご列席いただき、約80名の方が出席され、ご自身の研究テーマやシンポジウムなどを話題に活発な話し合いの場として親睦が図られました。

情報の内容を研究の対象にしている日本教育情報学会が、日本の教育のために新しい方向性を見出すことができた年会となったのではないかと考えています。実施運営を支えていただいた岐阜女子大学、岐阜大学をはじめ岐阜県関係者の皆さまに深く感謝いたします。

第16回年会論文集をご希望の方は事務局までお問合せください。

2001年度第17回年会は、11月10日(土)・11日(日)の両日、国立オリンピック記念青少年総合センター(東京都渋谷区)で開催されます。詳細につきましては、次号でお知らせします。ご連絡が遅くなり失礼いたしました。

————— 2000年度日本教育情報学会学会賞について —————

学会賞は「奨励賞」と「論文賞」とし、いずれも本学会に所属する若手研究者を対象として選考する。奨励賞は、その前年度の学会研究発表大会において発表された優れた研究

の中から選考する。論文賞は、学会誌『教育情報研究』に掲載された論文のうちで特に優れたものに対して授与する。この賞は必ずしも毎年授与されるとは限らず、該当論文が得られた場合にのみ表彰する。なお選考委員の提議により学会運営委員会が必要と認めた場合には、対象を若手研究者にかぎらず「特別賞」として表彰できるものとする。

●奨励賞（2件）

坂本 徳弥 情報活用能力の育成と歴史学習（1999年発表）

横山 隆光 地域ネットワークを利用した環境教育支援システムの開発と実践

（1999年発表）

●論文賞（1件）

栗原 隆史 幼稚園の募集活動における競合地の抽出と分析 第15巻第4号

（ミクロ的問題に対する地理情報システムの適用（14巻3号））

●特別賞（なし）

年会費お支払いのお願い

2001年度がはじまります。新年度の会費の振込用紙を同封いたしましたので、手続きをお願いいたします。

本学会は、会員の皆さまからの会費によって運営されております。学会の正常な運営のためにも、趣旨ご理解の上、お早めに手続きをいただきますよう、ご協力をお願いいたします。

なお、過年度分の年会費のお支払いが、まだお済みでない方は新年度会費と合わせて手続きくださいますようお願いいたします。

*****退会される方へ*****

退会届の特定の書式はございませんが、退会される方は、A4の書面（郵送またはFAX）で、事務局までご提出ください。

記載事項としては、退会の旨、会員番号、氏名、届出日、退会期日、印、その他必要と思われる事項です。

なお、未払いの過年度分の会費は、お支払いくださいますようお願いいたします。

また、退会後にも2000年度中に発行予定の刊行物を送付する場合がありますので、ご了承ください。これらも一切不要の場合は、退会届にその旨をご記載ください。